

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200151		
法人名	医療法人社団 順心会		
事業所名	グループホーム すずらんの家		
所在地	兵庫県加古川市神野町石守1651-10		
自己評価作成日	平成25年3月22日	評価結果市町村受理日	平成25年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2-2-1
訪問調査日	平成25年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を大切に、家庭的な環境のもとで安心と楽しみを持って生活できるよう支援しています。入居者その人を生活の主体と捉えることで、毎日の生活が押し付けがましくならないように、自由に過ごしていただけるよう努めています。地域との関わりも根強くなるよう、もっと交流を図り地域に愛されるグループホームを目指します。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①理念に基づく運営・・「その人らしい生活を大切にします」「地域の一員として交流をもてるように支援します」「家庭的な環境の下、安心と楽しみを持って生活できるよう支援します」を事業所理念としている。職員全員がその実践に向け真摯に取り組んでいる。②医療連携体制(安心)・・同法人の施設が隣接しており、日常生活における健康・医療面での対応や急変時の連携が整備されており、本人及び家族の安心感に繋がっている。③生活を楽しむための工夫・・「入浴を楽しむ」「食事を楽しむ」「外出を楽しむ」「語らいを楽しむ」「健やかであることを楽しむ」等、日常での「楽しみ」をより多く感じられるように工夫をしている(手作りの食事の提供をはじめ、季節湯、外湯、食事会、お花見会、お祭り(屋台等)、リハビリ体操等々)。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに数か所に理念を貼りだし、いつでも確認・意識付けが出来るようにしている。その上で理念を掘り下げたケアにつなげている。	「その人らしい生活」「地域の一員として」「安心と楽しみ」を事業所のキーワードとして、家庭的な環境の下、生活できるよう支援している(職員が口腔ケア、レクレーションセミナー等に参加)。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域のお店に入居者と行くようにしている。今後、集える場の利用も考え、ここで催しができると地域に解ってもらい行事にも参加してもらえようような取り組みをしていきたい。	地域リハビリセンターでの行事(花祭り、夏祭り等)に参加し町内会の方々と交流したり、園児と楽しい時間をすごしたり、また地域のお店(食料品店、ホームセンター等)に出かけたり、と地域の一員としての生活を楽しんでおられる。	今後も、地域の社会資源として、認知症ケアの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や近隣の方々の見学を受け入れ、その際に施設の方針やケアの重要点について説明している。今後、認知症の理解をしてもらう為に勉強会や家族教室を行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方にホームの現状、事故、今後の課題などを報告し、話し合いの場をもつ事でサービスの向上に努めている。	運営推進会議では、毎回5.6名の家族が参加し、また町内会の方々からは、地域の様々な情報を入手している。意見交換では、口腔ケア、食事についての検討をおこなったり、認知症ケアについて参加者で理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者にも参加してもらいホームでの現状、ケアへの取り組みを報告している。	2市2町グループホーム連絡会に参加し、行政の職員とも連携をはかっている。キャラバンメイトとして地域で開催する認知症サポーター養成講座に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、年間の研修予定に組み込んでいる。玄関の施錠については自動ドアで施錠してある状態にある。希望時、出来る限り散歩など外出するようにしている。	身体的拘束等の弊害を充分理解し、「身体拘束廃止宣言」を掲げ、見守り強化で安全面の支援を行っている。常に、入居者の動きについて把握し、さりげないサポートを行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を年間の研修予定に組み込んでいる。また、虐待防止に関する内容を、掲示欄に表示している。	認知症高齢者への虐待についての事例等を交えての研修を実施し、「不適切なケア」の段階からの払拭に取り組んでいる。また、職員間のコミュニケーションを重視し、メンタルヘルス不全が生じないよう相互にフォロー合っている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を活用されている入居者がいますので、学ぶ機会を持ちました。必要に応じて活用できるように支援していきたい。	現在、活用者がおられ、職員も制度活用が認知症高齢者への支援の一方策であることを理解している。地域包括支援センターの協力を仰ぎ、知識等が向上できるよう研修を行った。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項説明書に対して、管理者と計画作成担当で説明し、同意をいただいた上で署名、捺印いただいている。	契約前に、見学、質疑応答により、疑問・不安感等が協力的な状態にして、契約を締結している。法人が種々の施設を有していることで、退居時のサポートについても説明し、理解いただいている。	家族からよくある質問をまとめ、今後の契約や職員教育にも活かせる取り組みにも期待をします。(Q&Aの作成等)
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に1回開催している運営推進会議にて、意見や要望を伺っている。面会時にも必ず声を掛け家族様と話をするようにしている。満足度調査も実施しており、ご要望を記載するところを設けている。	運営推進会議の他、面会時には職員の方から積極的に意見等を伺い、満足度調査も実施している(意見・要望として:室温管理、外食について、災害時対応、リハビリについて等)。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のカンファレンス時に意見や提案を受け、話し合いをして申し送りノートに記載し確認できるようにしている。	職員からの意見等を汲み取る風土は醸成されている。時間の有効活用のため、毎朝のミーティングがその機会となっている。リビングのソファ設置は、職員～の意見によるものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課・職員面接を行い各自が目標を持って働けるよう努めている。その他、職員の様子をみて面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2市2町の勉強会に順に参加できるようにしている。1か月に1回、法人の研修に参加する機会を設け、職員1人1人の力量アップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町グループホーム協会に参加し情報交換・ネットワークづくりに努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族・担当ケアマネなどから情報を聴き取り、本人の思いを受け止めることで信頼関係を築いている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談し家族の思いや困っていた事を聴き取り、安心して入居できるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況に応じて、他のサービスの紹介を行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人と同じ目線で関わり、安全に戸惑うことなく、暮らしを共にする『家族』のように関わっていくよう努める。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常の様子をコメントし写真入りで毎月、家族様に送っている。病院への受診は出来る限り家族様に付き添っていただくようにしている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や近隣の方が訪ねて来られた時は、ゆっくりお話しできるようソファも設置しており、必ず1杯のお茶を出すようにしている。今後、馴染みの場所に外出、訪問できる機会をつくりたい。	家族、知人・友人が訪問しやすい雰囲気づくりを心がけている。併設の施設(ケアハウス)から、毎日配偶者が面会に来られる方もおられる。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の好き嫌いを把握し、テーブル席はある程度決めている。職員が食事やおやつ時に一緒に席につくことで会話のしやすい雰囲気作りをしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になり退居になったケースしかないが、入院中の様子を聞いたり、面会したりしている。その際、家族様からお礼の電話があり話をする機会ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の際、希望や意向を聴きプランに取り入れている。毎日の会話の中からも、申し送りなども通じ意向を汲み取っている。	担当者を主軸に、入居者個々人との日常会話や仕草・表情等により、本人の思い・意向を汲み取り、毎朝のミーティングで共有し、日々のケアにも活かしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当ケアマネから事前に把握している。入居後も会話を通じ、情報収集している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はケア記録に記録し現状の把握に努めている。申し送り時も職員個人で気になった事など報告してもらうようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向など、面会時に聞くようにしている	本人の思い・意向を踏まえ、担当者よりの情報を共有し、家族の要望も加味した介護計画となるよう取り組んでいる。介護計画に対する家族との共鳴を課題と考えている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送り10分間のミーティングで状態を密に連絡しあっている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健施設内での行事、買い物など可能な限り利用者と共に行くようにしている		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は地域のお店を利用しているが、地域との交流が少なく感じる。今後、地域の生き生きサロンへの参加など検討していきたい。トライやるウィークの受け入れをしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、かかりつけ医へ受診し紹介状作成している	事業所の協力医と以前よりのかかりつけ医の選択は、本人・家族に委ねている。通院受診(内科)のみ行っており、家族と協働している。眼科、皮膚科等への通院同行は事業所が行い、家族へ情報報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回、訪問看護師による健康管理を行っている。気付いたことを事前に書いておく事により、職員1人1人が気づいた事も相談できるようにしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換が密に行っている。入院の際は情報提供書を送っている	入院中は、職員が面会頻度をあげ、入居者の不安感を軽減すると共に、洗濯物等の交換も行っている。病院とは、看護師、MSWを介して情報を密にし連携している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームで出来る範囲の確認を行っている。状態に合わせて家族様と相談し、適切な医療機関へ紹介を行っている。看取りは行っていない。	重度化等の状況になった場合は、事業所で「できること」「難しいこと」を明確にし、本人にとって望ましい支援ができるようはかっている。家族・医師と相談しながらすすめている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成している。勉強会を行っている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。	年2回の避難訓練を実施(日中帯想定)しており、消防署協力による水消火器訓練も実施している。災害時には、隣接する同法人からの応援体制・避難場所が整備されている。また、夜間帯想定での訓練を次回予定している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で職員同士の会話についても注意している。個々の特性を十分配慮している	自尊心・羞恥心に配慮した声かけや接し方が見てとれる。入居者個々人の「強み」を把握し、日々が楽しくなるよう工夫している。また、接遇研修も実施し、「ヒト」との関わりについても学んでいる。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり話を傾聴するよう心がけ、本人が何をしたいのか読み取っている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず本人の希望にそえるように支援している		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は家族の希望により行う。私服であり本人の好みを優先している		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	満足度調査の結果も踏まえ、好みのメニューを取り入れている	献立作り、食材購入、調理、盛付け、配膳・下膳等入居者の得意な部分を職員と協働し、「食」の楽しさ、大切さを共有している。イベント食(バイキング等)や外食(寿司等)も好評である。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量のチェックをしている。飲み物は、好みの物を提供している		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、介助の方はリビング洗面所で見守り介助している。夜間、義歯は預かりポリセントしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせ誘導、清拭に努めている	入居者個々人の排泄パターンやそのサインを把握し、極力トイレでの排泄が行えるよう支援している。おむつの方もおられるが、仕草・表情等を読み取りながら不快にならないように支援をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状態を把握し乳製品や水分摂取を行い又は、その人に合った下剤の調節をしている		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。入浴は大変喜ばれている	毎日入浴できる状態にしており、最低週3回の実施となるよう支援している。入浴剤、季節湯等活用し、入浴が楽しいものとなるよう工夫し、ゆっくり、ゆったりと過ごせる時間を演出している。家族と外湯を楽しむ方もおられる。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	排泄のパターンを知り、日中も規制正しく生活することで安眠できるように支援している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きをファイルにいつでも見れるようにしている。変化については連絡ノートに記載し申し送っている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味に合わせた楽しみの時間を作るようにしている		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材のお買い物、散歩、食事会など企画して行っている	日常の散歩や自分の好きなものや食材等の買出しでの外出の他、季節毎の花見(桜、コスモス、紅葉等)、梅雨時の食事会(気分を晴れやかに)を実施している。現在、家族参加のバス旅行を計画している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、一定額預かっている。希望のおやつなど買い物に行けるよう工夫している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族様宛に書いて頂いている。電話の希望があれば、ステーションから配慮している		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに作った壁紙を貼ったり、花を活けてもらったり、室内環境にも配慮している	適度な採光と室温、入居者が歓談できるソファや小上がり(畳スペース)が設置されている。壁には、毎月実施した行事が掲示(入居者の生き生きとした表情が掲載)され、日々の楽しさを回想できるようになっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにもソファを置き自由に休めるように配慮している		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や思いでの品など自室に置くことで、落ち着いて生活できるよう配慮している。	使い慣れた馴染みのもの(家具、仏壇、絵画、写真等)を持ち込み居心地の居室となるよう支援している。全室に壁掛けテレビが設置されており、夜間帯も楽しい時間となっている。トイレ、洗面台が設えてあり、衛生面でも配慮されている。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り、声かけ、誘導を行い、不安感を与えないよう馴染みのスタッフで対応している		